

# 令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	79	51	44	5.1	7.4	学校	454
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	84	59.9	43.2	49.9	39.8	49.8	5.4	5.6	9.8	8.5	5.5
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	62	66.0	41.8	54.5	46.9	54.8	6.0	6.3	8.4	3.7	7.0
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	68	57.5	50.1	52.5	49.0	63.9	7.2	3.0	4.5	2.2	3.0
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	77	109.5	99.2	132.5	90.6
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	53	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	29.22	25.22	42.48	49.83	84.88	-	8.26	192.81	18.62	38.46
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	-	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	-	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	26.69	25.40	45.58	46.84	61.72	-	9.12	173.04	12.26	51.56
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	-	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	-	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【全国学力・学習状況調査】

＜国語＞

平均正答率は、全国・大阪府と比較して3.3ポイント、1.0ポイント下回った。思考力・判断力・表現力等の書くことは、大阪府より1.1ポイント上回った。授業内において漢字や文章を書くことを毎時間行っている成果がでた。しかし、読むことは、全国より4.1ポイント、大阪府より3.0ポイント下回っていた。授業内だけではなく朝読書などを通じて読む力の定着を図っていく。

＜数学＞

平均正答率は、全国・大阪府と比較して4.3ポイント、3.0ポイント下回った。領域別では、「図形」、「関数」において、全国・大阪府の平均正答率と比較しても下回っているが、差はあまりなく、領域における知識・技能は定着している。しかし、思考・判断・表現は平均正答率は大きく下回っており応用問題を少し取り入れた授業を行うなどし定着を図っていく。

＜理科＞

スコアが全国・大阪府と比較して49ポイント、35ポイント下回った。また、基準の500より46ポイント下回った。どの領域においても、知識・技能が大きく下回っており、授業での基礎・基本の定着を図っていく。

【3年生チャレンジテスト】

＜国語＞

府平均点との差は大阪府と比較して-4.3ポイントであった。

1年次からの積み重ねの成果が出ており、漢字や文法などの知識問題は平均を超えることはできていないが、平均に近い結果が出ている。また、記述式の問題は大阪府の平均を超えることができているため、入試に向けてレベル別に応じた多展開授業を行う。また、個別に合わせた方法で学び直しの機会を作り、学力の向上につなげていきたい。

＜社会＞

平均点は、大阪府と比較して、8.0ポイント下回った。地理的分野・歴史的分野ともに資料から情報を読み取り問題に答えるといった力が低く、今後、ICT等を活用し、資料を用いた授業を多く取り入れ情報活用力・読解力の向上を図っていく。

＜数学＞

平均点は、大阪府と比較して4.0ポイント下回った。

図形分野での角度を求めたりする問題の回答率は高かった。しかし、データの活用分野の正答率が低く、データを読み取る力や専門用語の知識不足が見られた。ICT等を活用し、データの活用能力の向上を図っていく。

＜理科＞

平均点は、大阪府と比較して6.2ポイント下回った。

すべての領域で基本的な問題の正答率がとても低いいため授業等においてインプットやアウトプットの機械を増やし、知識の定着を図っていく。

＜英語＞

学習指導要領の領域別平均点、評価の観点別平均点、問題形式別平均点のすべてにおいて、大阪府平均を下回った。著しく下回る項目は見られないが、読む・書く・聞くのすべてにおいて基礎力が不足していることがわかる。特に書く項目では、無回答率が高かった。授業の構成や課題の内容などを工夫し、基礎力をつけさせたい。また、書く活動を増やす。

【大阪市英語力調査(GTEC)】

＜成果＞

4技能は大阪市と比較して、すべて下回っていた。前年度と比較すると「読むこと」、「聞くこと」は上回った。

＜課題＞

「書くこと」「話すこと」は前年度と比較して、下回っており、英作文や会話を中心とした授業を展開するよう改善を図っていく。

【中学生チャレンジテスト(2年生)】

＜国語＞

平均点は、大阪府と比較して5.6ポイント下回った。領域別では、「読むこと」の平均値が大阪府と比較して0.3ポイント下回っているが、日ごろの朝読書の成果が見られた。漢字の読み、書きの練習を週末課題等において反復を行い定着率の向上を図る。

＜社会＞

府平均より-2.5ポイントではあったが、前年のチャレンジPlusよりも、3.6ポイント向上した。

全体の得点分布グラフを見ると中間層が少なく、ところどころで突出した層がみられる結果であった。しかし、府の分布を上回っているのは、ほとんどが得点率の低い層であり、知識が定着していないことがわかる。

知識を定着させるために、授業や宿題などで対策を図る。

確認テストの実施で、自分の力がどれだけ身についているかを確認できる機会を多く増やす。それにより勉強への意欲向上も含め、知識の定着を図る。

＜数学＞

令和6年度では府に対して平均が-2.5だったが、令和7年度では府に対して平均が-0.5になり、昨年度よりも府の平均値に近づいている。次に、府に対して無回答率の推移は-0.2となった。しかし学年が上がり、全体的に難易度が上がったことや、すでに学習した内容を忘れていたことが無回答に関係があると考えられる。また、他教科の結果から、学年全体の学力が向上していることがうかがえる。数を使った説明に関しては正答率が高く、比較的新しい単元に関する問いも正答率が高い。しかし、前期に学んだことや、1年生時に学んだことは正答率が落ちている。3年時には、1,2年時に学んだ内容を拡張したものが多いため、単元ごとに1,2年時の内容に触れ、復習をし、定着を図る。

＜理科＞

平均点は、大阪府と比較して、0.2ポイント上回った。領域別では、「地球」の領域の平均店点が、0.7ポイント上回った。評価の観点では、知識・技能の観点で大阪府平均を下回っており語彙等の定着や実験を通して技能の向上を図っていく。

＜英語＞

成果としては、まず大阪府の中2英語平均点51.8点に対して54.8点と3点上回った。実施概況においてですが、学習指導要領の領域別平均点の「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべての項目で府の平均を上回り、効率よく生徒たちが学習できている。課題としては、疑問詞の文法が理解できていないことや単語を覚えること(語彙力)に取り組んでいく。

単語力をつけるには、やはり書いて覚えることが基本だと思いますので、デジタルの流れの中ですが、ノートに書くということを継続していければと思います。

令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【中学生チャレンジテスト(1年生)・中学生チャレンジテストplus】

《国語》

大阪府平均より5.7ポイント下回った。「読むこと」の平均点は大阪府平均と差が小さく、朝読書の成果がでている。「書くこと」の平均点は大阪府平均と大きく差があり、自分の考えをまとめる等の文章を書く練習を授業の中に取り入れ向上させる。

《数学》

ヒストグラムで見ると3山になっており、一桁の生徒がいたことが大きな課題であると考え。また中央値が府平均と7.5点の開きがあることから、得意不得意な生徒だけでなく全体的に基礎の積み重ねからの定着にまだまだ課題があるといえる。

具体的には「数と式」の区分では、累乗の指数などの基礎が理解できていない、「関数」の区分では、反比例の特徴を理解できていないことが分かったため今後の演習時間などで改善を図っていく。

直前に学習し、復習を行った「図形」の区分がわずかであるが府平均を超えたことは成果と言える。このことから定期的に復習など確認作業を行うことが効率的であった。

また、府の無回答率8.8%に対して、本校の4.5%はわからないなりに積極的に解こうと考えている生徒の姿勢なども喜ばしく思う。演習時間をとり基礎の定着を図る。

数学が苦手な生徒も多いため各単元の導入に気をつけて、興味を引きながら取り組ませることができると理解度にも変化が現れると思う。

また説明する問題においての正答率が低いため、考えていることを根拠を示し、言語化できる力を向上させる。

《英語》

大阪府平均65.2点、本校1年生63.9点で、府平均-1.3点だった。これは、チャレンジテスト前の授業内で、教科書以外の読み物教材を取り組んだ結果だと考えている。4技能の中では、書くことが+0.4点で、平均点を上回っていた。

項目別では、知識・技能が-0.1点、思考・判断・表現が-1.2点で、英語を読み込んで考える力をつける必要がある。5～10分程度の帯タイムで、4技能の力がバランスよくつく教科書以外の教材を準備し、継続的に取組んでいくを図る。

《社会》

市平均より-8.2ポイントであった。

正答率度数分布では、40%～70%未満までの層が多く、それ以上は市を大きく下回る結果である。そのため中間層の引き上げが課題であること、また、30%未満の層が最も多くを占めているため、知識の定着ができていない層へのアプローチが必要である。

知識を定着させるために、授業や宿題などで対策を図る。

確認テストの実施で、自分の力がどれだけ身につけているかを確認できる機会を多く増やす。それにより勉強への意欲の向上も含め、知識の定着を図る。レベル別の実施なども検討し、個別の学習に取り組むことで、全体の向上を図っていく。

《理科》

大阪市平均より8.0ポイント下回った。

知識を定着させるために、確認テストの実施の回数を増加させる等、意欲向上も含め、知識の定着を図る。家庭学習(宿題)等において、個別の学習に取り組むことで、全体の向上を図っていく。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

男女ともに長座体前屈が全国比を下回っており、日々の授業での準備運動において柔軟運動を引き続き取り組んでいく。

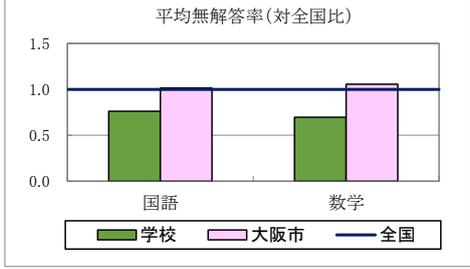
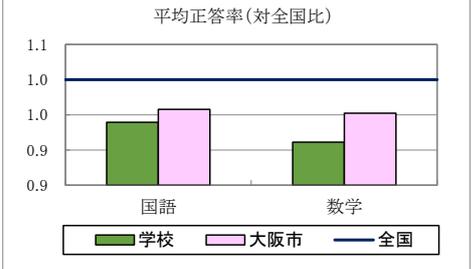
**令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ**  
**—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—**

**全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より**

**【 全 体 】**

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	51	44
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	5.1	7.4
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

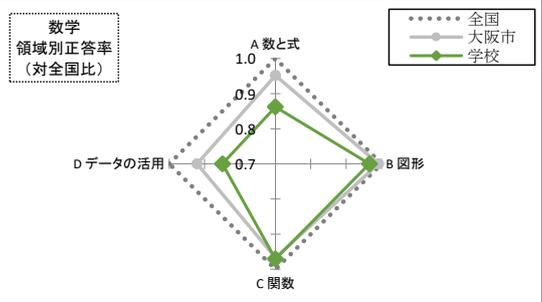
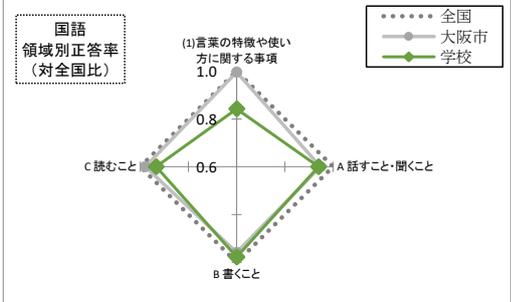
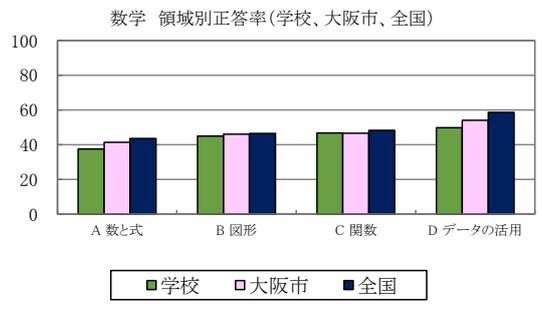
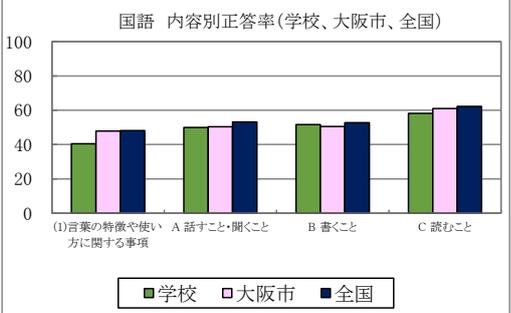


**【 国 語 】**

**【 数 学 】**

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	40.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	50.0	50.4	53.2
B 書くこと	5	51.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	58.2	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	37.5	41.4	43.5
B 図形	4	44.9	46.1	46.5
C 関数	3	46.8	46.6	48.2
D データの活用	3	49.8	54.0	58.6

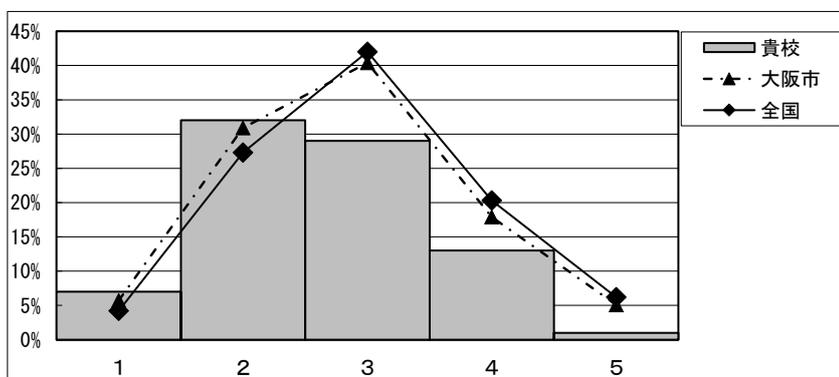
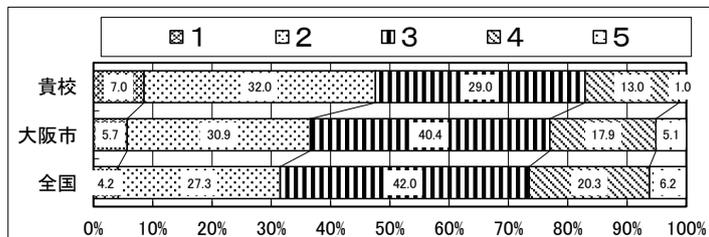


令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ  
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	454
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

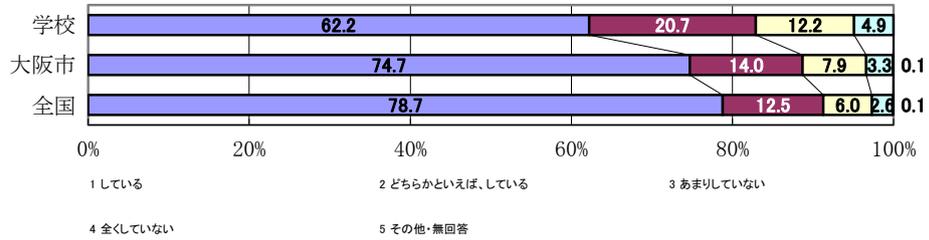
## 生徒質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号  
質問事項

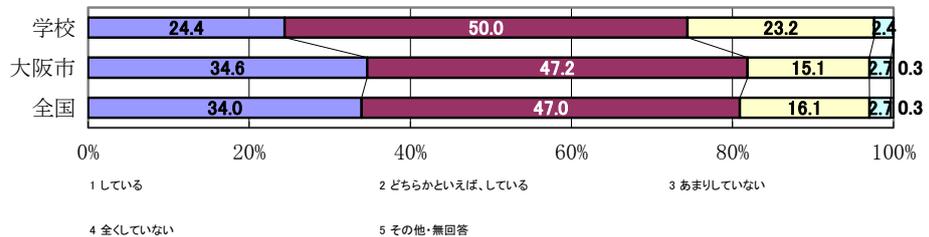
1

朝食を毎日食べていますか



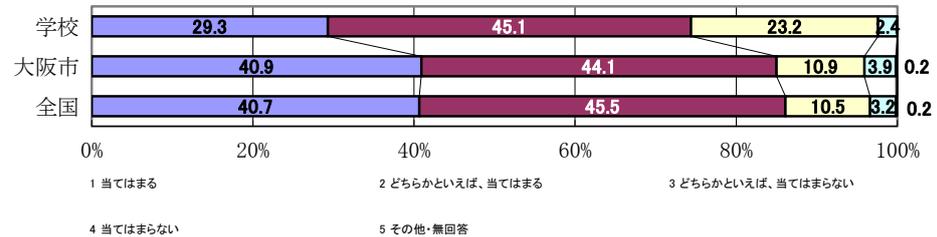
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



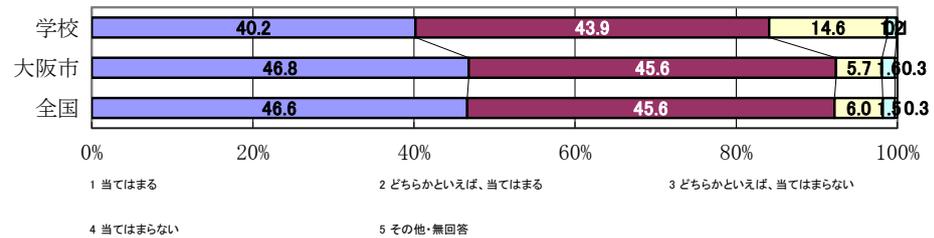
5

自分には、よいところがあると思いますか



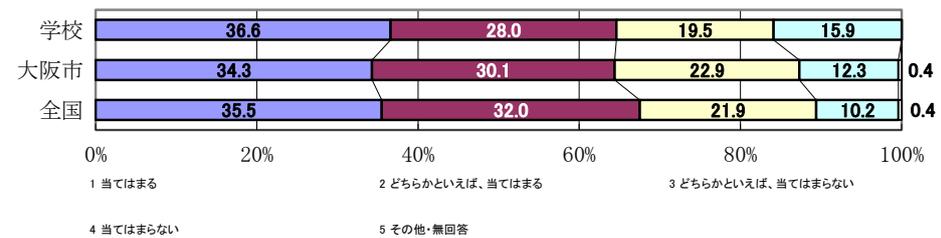
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



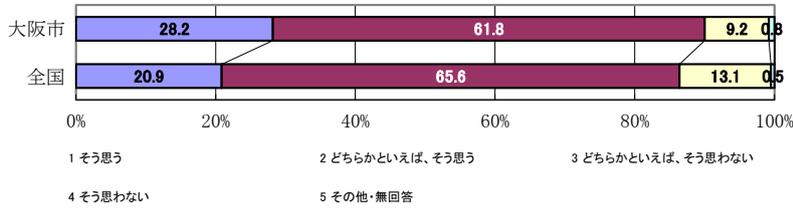
# 令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より



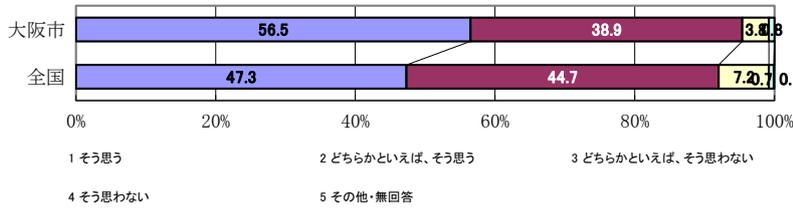
質問番号
質問事項
7
調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



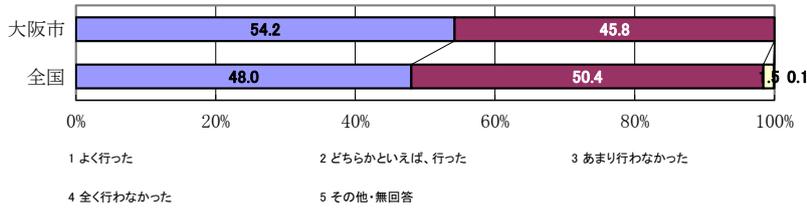
質問番号
質問事項
8
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



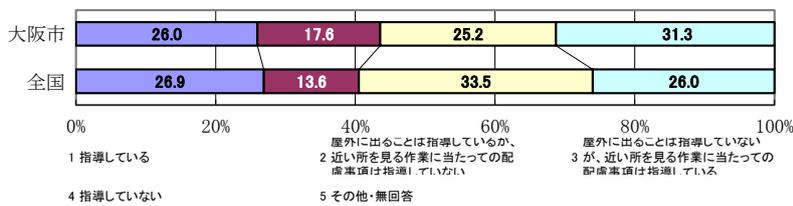
質問番号
質問事項
9
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

学校 「よく行った」を選択



質問番号
質問事項
10
近視の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たったの配慮事項(対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を

学校 「指導していない」を選択



質問番号
質問事項
11
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

